

～あした、転機になあれ!～

# 美し島から... 哲楽さびら。

職場を元気にする哲楽レシピ その一

## 「店長」「こ、エールを込めて。」

店長が抱える課題は  
共通する部分が多い

この連載も、22回目になりました。それなのに私は、相変わらずずパチンコ業界についてあまり詳しくありません。そんな私が、この連載をお受けしてきた理由は、ひとつ。「店長の立場・気持ち」は、わかるから。

私の仕事は、スタッフがイキイキ元気に働ける職場づくりのサポート。数字の面ではなく、コミュニケーション・考え方の面から取り組む担当です。医療介護・小売業・飲食店・コールセンター・銀行：10年の中でたくさんの現場にうかがってきました。新人研修から役員研修まで、対象となる方もさまざまですが、なかでも昨年、一番多く向き合ってきたのが「店長」。どんなお店でも「店長」が抱える課題や気持ちには、共通する部分が多いと感じます。

「この雑誌を読んでいる店長へ、エールを!」。この言葉が、執筆をお受けする一番のきっかけとなりました。職種は違っても、働く人の気持ちはそう変わらないというのが、10年の活動を通じての印象です。

店長が元気なら  
スタッフも元気になる

「哲楽さびらって、どういう意味

ですか?」

出張先での名刺交換の時に、キヤッチコピーを見た方々からよく質問されます。沖縄で「さびら」は「lets」!というような意味。沖縄発で「哲楽しましよう!」と呼びかけ、広めていきたいという願いを込めて、名刺に入れました。

哲学科で東洋哲学を学んだ後、コーチングに出会い資格を取得し、企業現場を中心に講演・研修などを行ってきましたが、現場のさまざまな声と向き合う中で「現代の職場が抱えている多くの課題は、哲学、そしてという姿勢が解決のカギとなるのでは?」と考えるようになりました。

経営者の中には「哲学」に憧れや関心を持っている方も多い一方で、一般的には「哲学」という言葉や学問に対し、アレルギーを持つ方もいるようです。難解で浮世離れ...というイメージを変え、どうにか「ジーンズのように、日常に気軽に活用してほしい」と思い、考えたのが「哲楽」というスタイルでした。

コミュニケーションについて、私がコーチングの講座をやっていた時よりも、店長さんたちとイスを丸く並べて「自分のお店に必要なコミュニケーションって、何だ?」とワイワイ哲楽するスタイルにした方が、さまざまな変化が出てきて、驚きです。「みんな、最初の時と顔が違

ますね!」と、担当者や社内の見学者の方にも、驚かれます。

店長が元気だと、お店のスタッフも元気になる。店長の背中が暗いと、お店のスタッフも何となく暗くなる。店長の影響は大きいそうです。スタッフの方々は、思っている以上に店長のことをよく見ていることがわかってきました。「あちこちから、見られている」、これもまた店長の大変さのひとつのようです。

店長を孤独にさせない  
仕組みづくりが大切

そして、店長は「お店に一人」ということも、共通。店長の大変さをわかってくれる人は、お店にはいません。だからこそ「店長同士で気持ちやアイデアを共有する場」が、講師の話聞くよりも重要だと感じています。「自分だけじゃなかったんだ!」と実感するだけで、本当に大きな元気が生まれることを知りました。こうして笑顔が生まれる場面を見るたびに「自分だけ」という孤独の感覚が、いかに人の元気を下げてしまっているかを感じます。

店長が「お店に一人である」とことと「孤独である」のは別。お店で一人の立場の人を孤独にしない仕組み・工夫は、とても大切です。私が、店長の皆さんと一緒にやっ

ているのは「店長を哲楽すること」。

店長の元気に欠かせないものは何? 店長の面白さって? 店長の辛さは何だろうか? 店長に必要な力は? 店長に必要なサポートは? ...という風に、さまざまな視点から、店長と一緒に「店長」を哲楽すると、思いがけない風穴があくことがあります。

正解を求めず、視点と発想を広げ...今年も一緒に、哲楽さびら!

店長は、お店に一人。  
でも、店長は  
「一人ぼっち」じゃありません。



紀々 (きき)  
哲楽家。那覇市出身。1998年に早稲田大学第一文学部哲学科東洋哲学専修を卒業。「自ら考え、自ら動く力を磨く社員研修を」との依頼を受け、「哲楽のチカラを、笑顔のチカラに」をテーマに、さまざまな企業現場でサポートを行っている。特に「若手リーダー・女性スタッフがイキイキ元気に働ける職場づくり」を哲楽する研修は、好評。現在は、沖縄の表現で「Let's 哲楽」を意味する「哲楽さびら。」を合言葉に、沖縄発で職場に哲楽習慣・風土を広めるべく活動を展開中。